

# にぎわい

北海道版

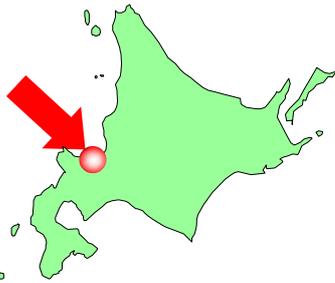
日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

会員だより

## 小樽 中国定期コンテナ航路開設

- 中国から第 1 便が入港 -

北海道 小樽市



小樽と中国を結ぶ定期コンテナ航路が開設され、9月18日に第1船「ココパームアイル号」が小樽港に入港しました。入港当日は、コンテナターミナルのある港町ふ頭におきまして、港湾関係者や関連企業など多くの方々の出席をいただき、航路開設記念式典を開催して航路の開設を祝いました。

この航路は、北海道では中国とつながっている唯一の定期コンテナ航路です。運航船は、11,244トン(D/W)の「ココパームアイル号」と、同型の「ハイビスカスアイル号」の2隻で、小樽 - 富山 - 大連 - 青島 - 上海 - 境港 - 新潟を寄港し、1航海14日で回ります。小樽港寄港は、毎週水曜日に週1便体制になっています。

今後も札幌圏に隣接する優位性を活かして幅広い集荷活動に力を入れるとともに、コンテナクレーンの設置など港湾施設の整備を進め、コンテナサービスの向上をはかっていきたいと考えています。

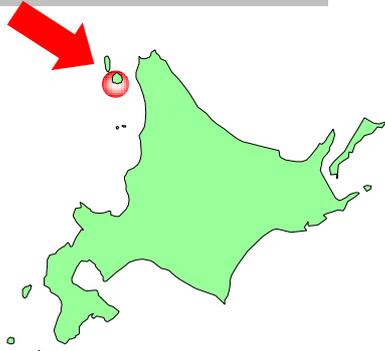
小樽港が中国の大連、青島、上海とコンテナ航路で結ばれたことは、新潟・舞鶴と結ばれる国内フェリー航路、サハリン州ホルムスクと結ばれる日口定期フェリー航路と合わせて、更に日本海を中心とした海上交通ネットワークの充実がはかられ、今後ますます港の活用がはかられることとなります。



ココパーム・アイル号 11,244ト

小樽港初の定期コンテナ船就航をテープカットで祝う関係者

## 会員だより



### どんとシンポ

## 「利尻発 クルーズの夢 島の魅力」

~ Dream of Island ~

北海道 利尻町

去る9月25日、利尻島（利尻町杓形於：交流促進施設「どんと」）で北海道開発局、北海道運輸局、水産庁および利尻町の共催による「利尻発 クルーズの夢 島の魅力」と題してシンポジウムが開催されました。

大型客船による旅客クルーズを地域活性化の起爆剤にすることを狙いに、利尻、礼文、サロベツ国立公園にも指定されている利尻、礼文、稚内圏において、豊富な自然を始めとした大きな魅力を有し、これからの北海道クルーズの中心的な役割を果たすであろう利尻島、礼文島について、それぞれ専門の立場からの講演と地元利尻町長の参加によるパネルディスカッションが行われました。

講演では、実際に杓形港に寄港している大型客船「飛鳥」を所有している郵船クルーズ(株)運輸部長田中氏、クルーズツアーの旅行会社であるパシフィック・ツアー・システムズの営業部長祖師氏のお二人からは、利尻島を含めた離島クルーズで寄港した島の方々との交流やクルーズマーケットの現状と今後の伸びる可能性について語られ、さらには東京都出身で現在礼文島在住の植物写真家でありエッセイストの杉田氏からは、美しい利尻



田中氏による基調講演



パネルディスカッション

礼文という北の島々の魅力が語られました。

また3名の講師と地元利尻町長が参加してのパネルディスカッションでは、町長より今日までの旅客クルーズの取り組みについて話されました。またパネラーからは、今後のクルーズの展望についての貴重なご意見がだされ、なかでも現在、利尻礼文両島ともに大型客船が着岸できる岸壁がないため、大型客船は沖合いに停泊しテンダーボートで上陸をしているが、これだとどうしても天候に左右されることから、クルーズ船の着岸岸壁の早急な整備が必要であるとの意見がだされました。

本シンポジウムにおいて、利尻、礼文クルーズの大きな可能性を感じることができ、今後の取り組みの大きな一つのきっかけとなりました。

**編集・問い合わせ先**

**日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局**

**国土交通省 北海道開発局 港湾計画課 調査係内**

**Tel : 011-709-2311 (内線 5617)**

**Fax : 011-709-2147**

**E-Mail : [saitou-a22ac@hkd.mlit.go.jp](mailto:saitou-a22ac@hkd.mlit.go.jp)**